

執筆者紹介

生井真理子（大谷女子短期大学非常勤講師）

早川久美子（本学大学院博士課程前期課程修了）

槇山朋子（阪南大学非常勤講師）

向井芳樹（本学教授）

藤井涼子（本学文学部嘱託講師）

橋本和佳（本学大学院博士課程前期課程）

編集後記

「超いそがしい」のように、「元来「超特急」のごとく使われていた一種の接頭辞が、和語に冠せられるようになって三年近く経つ。

それが「チ、ョ、ベリバ」などという超縮約形になって、若い世代の間には広がっている。おのが耳を疑う中高年の人も少なくないであろう。

同じ略語ながら「仮設」という語が「仮設住宅」の意味で、広く使われるようになったのは、つらく切ないことである。恒常的な普通の家に住みたいという被災地の人々の切実なひびきが、この語にはこもっている。

二十一世紀まであと三年足らず、明治三十年から百年、来し方行く末を想う時期に、最近の言語現象について感じたことを記した。

ここで会員のみなさんには、悲しいお報せをしなければならぬ。旧臘十二月二十三日、近世文学を担当された名誉教授の小森啓助先生が逝去され、二十五日に告別式が営まれた。本学国文学専攻で先生のご薫陶を受けた卒業生は二千人を越えるであろう。この誌面を借りて小森先生のご冥福をお祈りする。

本号には、卒業生、大学院生、専任教員などからの計七篇を掲載することが出来た。会員の研究・調査等の成果として喜ぶとともに、さらに積極的に投稿されるよう各位にお願いしたい。

（玉村文郎）

同志社国文学 第四十六号

一九九七年三月二十五日 印刷

一九九七年三月二〇日 発行

編集 田中 励儀
玉村 文郎

発行 同志社大学国文学会

(代表) 駒木 敏

京都市上京区今出川通烏丸東入
振替 〇一〇九〇一一二七三七

印刷所 共同印刷工業株式会社

京都市右京区西院久田町